

特例講習科目「保育内容総論」における アクティブ・ラーニング型授業の報告 —遊びの中の保育内容5領域の検討—

園田雪恵

SONODA Yukie

本稿において、特例講習科目「保育内容総論」の授業を振り返ることにより、授業改善を行うことが目的である。第2回目の「遊びの中の保育内容5領域」の検討では、アクティブ・ラーニング型授業として Think-Pair-Share の技法を取り入れた。

授業では、佐賀大学文化教育学部附属幼稚園の『遊び集』より5つの事例を用いて分析を行った。分析方法は、次のとおりである。事例にあげている遊びの内容を読み、遊びを把握する。続いて、その内容に関連すると考えられる幼稚園教育要領5領域の内容項目を抽出していく。

分析の結果、2人が全く同じ分析結果になったという事例は1つもなかった。また、『遊び集』で分析されている結果とも、違いがあることから、子どもの遊びに対して様々な見方があるということが窺われた。

Think-Pair-Share の技法を取り入れた授業において、他者の考えを聞くことにより、違う視点で子どもの遊びを見ることができたという感想があった。遊びの中に、保育内容5領域が含まれていることについて、一定の理解が得られたものと考えられる。

キーワード：保育内容総論、特例講習、アクティブ・ラーニング、保育内容5領域、総合的な指導

1. はじめに

本稿は、特例講習の科目である「保育内容総論」の2016年度前期の実践報告である。一部の授業展開を示し、振り返ることにより、今後の授業改善に役立てたい。

特例講習とは、認定こども園法改正に伴う特例措置による幼稚園教諭免許状取得のための授業である。幼保連携型認定こども園への円滑な移行を進めるため、幼稚園教諭免許状又は保育士資格のいずれかを有していれば、保育教諭として勤務できる経過措置(5年間)を設けている。この間にもう一方の免許・資格を取得する必要がある。

今回の受講者は、保育士資格を有し、実務経験3年以

上かつ勤務時間4320時間以上の実践経験を有する。

保育内容総論とは、本学の「教育課程及び指導法に関する科目」群に属する演習科目である。この授業の中で、子どもの遊びにおける保育内容5領域の指導法を総合的に理解することが求められる。シラバスは以下のとおりである(表1)。本稿においては、「2. 遊びの中の保育内容5領域」について報告する。

表1 特例講習「保育内容総論」のシラバス

科 目 名	保育内容総論
単 位 (授 業 形 態)	1単位(演習)
担 当 者	園田 雪恵
テーマ及び授業の目標	
保育の5領域(健康・人間関係・環境・言葉・表現)における内容や教育者の思想を振り返り、自分自身	

の保育実践と関連付け、包括的な学習を行う。また、習得した知識を生かして実践できるよう保育者としての基礎力を培う。

授業の概要

これまでの保育に関する学習内容を踏まえ、プリントや資料の事例から総合的に考察していく。

全体の授業計画・内容

1. 幼稚園・保育所・認定こども園の法規および保育内容
2. 遊びの中の保育内容5領域
3. 子どもの「健康」—食育について—
4. 子どもを取り巻く「人間関係」
5. 「環境」による保育
6. 子どもの「言葉」—ちょっと気になる子の事例—
7. 子どもの「表現」—感性に繋がる保育—
8. 個人発表

学習の方法

予習のあり方：現在子どもが抱えている問題に関心を持つようにすること。

学習のあり方：プリントや資料を配布するので、重要なポイントは保育者の基礎知識として覚えること。

復習のあり方：授業での学習内容を保育者としての基礎知識と捉え、いかに実践に生かしていくのか検討すること。

成績評価

平常試験<期末試験>(70%)、確認テストおよび授業態度(30%)により、総合的に判断する。

テキスト

適宜プリント及び資料を配布する。
厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館
文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館

参考文献

講義の中で紹介する。

保育内容5領域とは、心身の健康に関する領域「健康」、人とかかわりに関する領域「人間関係」、身近な環境とかかわりに関する領域「環境」、言葉の獲得に関する領域「言葉」及び感性と表現に関する領域「表現」のことである。¹

保育内容5領域が明記されているものとして、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領がある。² 保育内容5領域のあり方について、それぞれ、次のように提示されている。

幼稚園教育要領において、「内容は、ねらいを達成するために指導する事項」と明示されている。「幼児が環境にかかわって展開する具体的な活動を通して総合的に指導されるものであることに留意しなければならない

い」としている。

保育所保育指針においては、養護と教育が一体化された中で、「保育の内容は、子どもの生活や遊びを通して相互に関連を持ちながら、総合的に展開されるものである」と示されている。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領においては、「教育及び保育の内容が相互に関連を持つ」ことが必要とされている。内容については、「園児が環境にかかわって展開する具体的な活動を通して総合的に指導される」ことに留意することが明記されている。

したがって、要領や指針の中で、保育内容5領域の総合的展開を保育・教育課程に求めていることになる。幼児教育では、遊びが重視される。好きな遊びに集中し、様々なことを自然に学んでいる。保育者は、子どもの遊びの中に、無意識的な学びがあることを認識しておかなければならない。

そして、保育者は、5領域の保育内容が、遊びの中で総合的に機能しているのか、常に検討していく必要がある。

そこで、今回は、子どもの遊びの中の5領域について検討した「遊びの中の保育内容5領域について」の授業報告を行う。第2回目の講義において、アクティブ・ラーニング型授業として、Think-Pair-Shareの技法を用いた。³この技法を取り入れた実践について報告する。

2. 「遊びの中の保育内容5領域」の教授内容と方法

2-1 幼稚園教育要領における保育内容5領域のねらいと内容の確認

子どもの遊びを理解するには、最初に保育内容5領域のねらいと内容を周知しておく必要がある。ねらいとは、就学前までに育つことが期待される心情、意欲、態度であり、内容はねらいを達成するために指導する事項である。⁴幼児期においては、健康、人間関係、環境、言葉、表現からなる5領域において、心情(豊かな心情、共感する心情)、意欲(わきあがる意欲、共通の目的に向う意欲)、態度(自立しようとする態度、協力する態度)をはぐくむことを目標とし、様々な体験を通して生きる力の基礎となる力を培っている。⁵

特例講習の受講者は、幼稚園教諭免許状取得を目的として受講している。このため、今回は幼稚園教育要領の第2章のねらいと内容を抜粋したプリントを配布し、初めにその中身の確認を行った(表2)。

幼稚園教育要領の保育内容5領域のねらいと内容は、保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領に記載されている内容とほぼ同じである。しかし、これら3つの要領や指針には、5領域の内容に若干の違いがある。この違いについて補足説明を行った。⁶

表2 幼稚園教育要領「第2章ねらいと内容」を抜粋したプリント

<p>幼稚園教育要領「第2章ねらいと内容」</p> <p>健康 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。</p> <p>1 ねらい</p> <p>(1) 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。</p> <p>(2) 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。</p> <p>(3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。</p> <p>(2) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。</p> <p>(3) 進んで戸外で遊ぶ。</p> <p>(4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。</p> <p>(5) 先生や友達と食べることを楽しむ。</p> <p>(6) 健康な生活のリズムを身に付ける。</p> <p>(7) 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。</p> <p>(8) 幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。</p> <p>(9) 自分の健康に関心をもち、病気予防などに必要な活動を進んで行う。</p> <p>(10) 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。</p> <p>人間関係 他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う。</p> <p>1 ねらい</p> <p>(1) 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。</p>
--

<p>(2) 身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感をもつ。</p> <p>(3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身につける。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。</p> <p>(2) 自分で考え、自分で行動する。</p> <p>(3) 自分でできることは自分でする。</p> <p>(4) いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。</p> <p>(5) 友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。</p> <p>(6) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。</p> <p>(7) 友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。</p> <p>(8) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。</p> <p>(9) よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。</p> <p>(10) 友達とのかかわりを深め、思いやりをもつ。</p> <p>(11) 友達と楽しく生活する中でできまりの大切さに気付き、守ろうとする。</p> <p>(12) 共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。</p> <p>(13) 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。</p> <p>環境 周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。</p> <p>1 ねらい</p> <p>(1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。</p> <p>(2) 身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。</p> <p>(3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。</p> <p>(2) 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組み</p>
--

に興味や関心をもつ。

- (3) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。
- (4) 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。
- (5) 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。
- (6) 身近な物を大切に作る。
- (7) 身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。
- (8) 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。
- (9) 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。
- (10) 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。
- (11) 幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。

言葉

経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。

1 ねらい

- (1) 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。
- (2) 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。
- (3) 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、先生や友達と心を通わせる。

2 内容

- (1) 先生や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする。
- (2) したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。
- (3) したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。
- (4) 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。
- (5) 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。
- (6) 親しみをもって日常のあいさつをする。
- (7) 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。
- (8) いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。
- (9) 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想

像をする楽しさを味わう。

- (10) 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。

表現

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

1 ねらい

- (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
- (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
- (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

2 内容

- (1) 生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。
- (2) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- (3) 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
- (4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。
- (5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
- (6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。
- (7) かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。
- (8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

2-2 遊びの中の5領域の存在について

子どもの遊びの中に、5領域が密接にかかわっていることを示す例として、以下のエピソードを紹介した。⁷

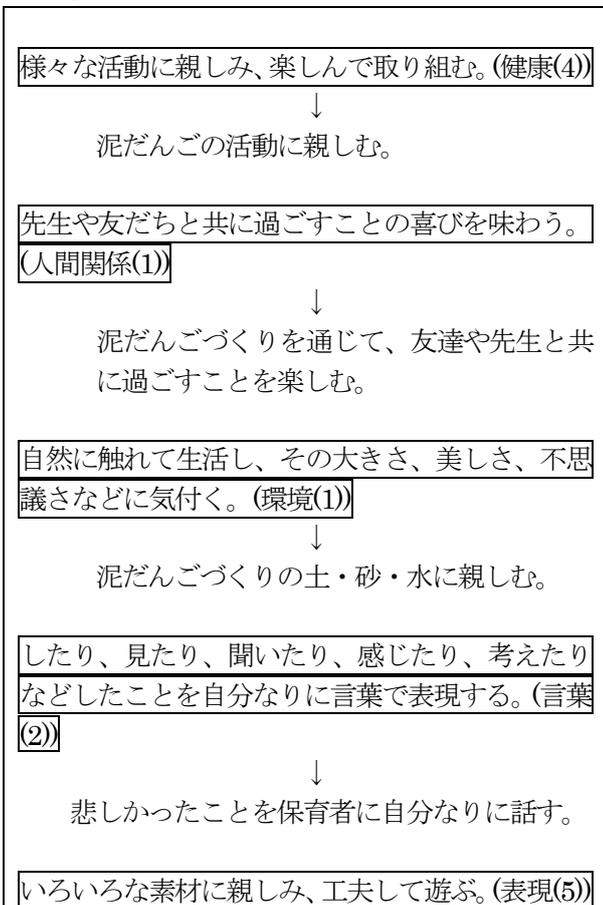
『保育内容総論』のエピソードから一部抜粋

エピソード「泥だんごにひびが入っちゃった」
4歳児のA児は、だんご工場とよばれる園庭の砂場

の裏側で、泥だんごをつくっていました。A児はいつも上手におだんごをつくるB児やC児のようにつくりたいと思っているようです。そのため、何度もB児やC児のほうをちらちら見ながら、砂をかけて指でこするなど、やり方を真似て作っています。B児が水を足すと、自分も水を足します。自分のそばでずっとつくっているA児をみて、B児は「うまいじゃん。」と声をかけます。すると、A児はうれしそうににっこりと笑いました。しばらくうまくいっていたのですが、30分くらいつと、A児のだんごにはひびが入って、割れてしまいました。C児から「ざんねーん」とちょっと馬鹿にされたように言われると、涙が出てきてしまい、近くにいた先生のところに走っていき抱っこされていました。そして、自分が頑張ってたんごをつくらなかったけどうまくできず、馬鹿にされていやだった気持ちを先生に話し、気持ちが落ち着くと、また新しい泥だんごをつくり始めました。

上記のエピソードを以下のように分析した。

分析例 1 エピソード「泥だんごにひびが入っちゃった」



↓

真似ながら、つくり方を工夫する。
※()内の番号は、幼稚園教育要領の各領域に示されている内容の番号

上記の事例「泥だんごにひびが入っちゃった」には、保育内容 5 領域の内容が含まれている。つまりは、泥団子づくりという活動の中で、子どもは、5 領域の内容を自ずと経験しているということが理解できる。

2-3 遊びの中の保育内容 5 領域の検討

遊びの中の保育内容 5 領域の検討するための資料として佐賀大学文化教育学部付属幼稚園の「遊び集」を使用した。⁸これは、「遊びをみつめる」を研究テーマに一冊の本にまとめられたものである。内容は、教育課程において、それぞれの子どもの遊びが各領域の内容事項にあてはまるのか丁寧に分析されたものである。

その冊子の中から、「変な顔遊び」「並べる」「マーブリング遊び」「郵便屋さんごっこ」「一輪車」の 5 つの事例を抜粋した。⁹まずは、5 つの事例を全員で読み、遊びの内容を把握した。1 つの事例に対して 2 人で分析を行った。

今回は、その冊子の中の 5 領域が分析されている結果を事前に伝えてはいない。遊びの事例のみを示し、受講者で検討してもらった(表 5 から表 9)。遊びの分析は、保育者によって異なることも想定される。このため、まずは、受講者自身の考えを見出すようにした。

検討の手順は、次のように行った。まず、1 人で遊びの事例を検討してもらおう。検討方法は、表 2 のプリントを使用し、その遊びに関連すると考えられる領域と内容の番号を記入する。その後、2 人で検討するという方式で授業を行った。2 人でそれぞれの遊びの分析結果を確認した。そこで、共通の分析結果と、違う分析結果のところについて、意見交換を行った。

次に、各事例を分析した代表者が、結果について発表した。その後、全体での話し合いの場を持ち、最後に授業者から講評を行った。

2-3-1 事例 1 について

事例 1 「変な顔遊び」
何のきっかけで、こうなったのでしょうか。たまたま

誰かが変な顔みせて、それをみた人が面白いと思って自分もやってみて、それを見ていた別の人が「自分ももっと面白い顔、できる！」とやってみて・・・

私がカメラを向けているからか、「いい顔」をしようとする人もいて、「いい顔」と「変な顔」が混在して、しまいには怪獣になる人も出てきて・・・

年少組ならではのたわいもない遊びです。

でも、こうやって自分の「変な部分」をさらけ出すことで解放感を味わい、そんな自分を互いに受け入れ合うことで、より仲良くなって「仲間」になっていくことだけは確かかなと思います。(庄籠)

人間関係	(1)(2)(4) (5)(6)(7) (8)	(2)(5)(8)	(1)(2)(3)(4) (7)(8)(12)
環境	(1)(2)(3) (4)(5)(7)	(1)(2)(4) (7)	(1)(2)(4)(7) (8)
言葉	(1)(2)(7) (8)	(2)(8)	(2)(8)
表現	(1)(2)(4) (5)(7)(8)	(1)(2)(3) (4)(5)(7)(8)	(1)(2)(4)(5) (7)(8)

表5 事例1「変な顔遊び」の分析

	Aさんの分析	Bさんの分析	『遊び集』の分析
健康	(1)(2)	(1)(4)	(1)(4)
人間関係	(1)(2)(5) (6)(7)(8)	(1)(2)(5) (6)(7)(8) (10)	(1)(2)(5)(7)
環境	(2)	(2)	なし
言葉	(1)(2)(8)	(1)(2)(3) (7)(8)	(2)(8)
表現	(4)(8)	(3)(8)	(1)(2)(4)

2-3-2 事例2について

事例2「並べる」

遊んでいて、ふと気が付くと、石や木の実を並べてあるのを発見することがよくあります。①はらくがきをして遊んでいて、ふと見ると、私が描いた恐竜にむくろじの実がならべてありました。②は、2人で並べて、「恐竜の化石」と言っていました。なるほど。③は園庭にただひっそりと置いてありました。細長い場所に細長く小石を並べる。細いハンドルの真ん中の棒にも小石をおいてみる。その気持ち、なんだかとてもよく分かるように思います。ここまでして満足だったので、次の遊びに移っていったのでしょうか。あまりにも芸術的だったので、思わず写真に撮りました。(庄籠)

表6 事例2「並べる」の分析

	Cさんの分析	Dさんの分析	『遊び集』の分析
健康	(1)(3)(4)	(1)(3)(4)	(1)(3)(4)

2-3-3 事例3について

事例3「マーブリング遊び」

毎年夏休みが近づくと、職員手作りの花火会を開きます。子ども達は、浴衣や甚平を着て普段とは違う薄暗い園庭でヨーヨー釣りや花火大会を楽しみます。花火会に合わせて、保育室ではオリジナルの団扇作りにも取り組みます。オリジナルの団扇を作るにあたって、子ども達にマーブリングを紹介しました。

まずは園長(大学の美術工芸科教授)がマーブリングのこつを説明しながら見本を示しました。「マーブリング」と言われてもピンと来ない子ども達も、真っ白な団扇が不思議な模様になって出てきたときには歓声をあげていました。それぞれ好きな色を選び、マーブリングをしてみると、予想もしなかった模様が出てきたり、一人一人違う模様が出来上がることから、とても興味深そうにしていました。

自分の団扇作りが終わってからもマーブリングができるように和紙や葉書サイズの画用紙を用意しておきました。何度もマーブリングをするうちに、子ども達の色や模様に対する考え方が変わったように感じました。最初は「ピンクとオレンジを赤！黒は絶対に入れたくないよね」と話していた女兒も黒がアクセントになってきれいな模様を創り出すことにも気がつき「黒もちょっといれてみるといういね」と言っていました。また、同じ絵具でも場所によって模様が異なることにも気が付き「せーの！」で友達と引き上げ、模様の違いを楽しんでいました。一人の女兒はマーブリングが気に入り、長い時間一人でマーブリングに没頭し、いろいろな色や模様を楽しんでいました。

年少・年中で「べとべと」「ぐちゃぐちゃ」の絵具遊びを楽しんできた年長ならではの、色や模様的美しさを楽しめる緻密な遊びだと感じました。(藤瀬)

表7 事例3「マーブリング遊び」の分析

	Eさんの分析	Fさんの分析	『遊び集』の分析
健康	(1)(4)	(1)(4)	(1)(4)
人間関係	(1)(2)(4) (6)(7)(8) (10)(11) (12)	(1)(2)(4) (5)(6)(8) (12)	(1)(2)(3)(5) (6)(7)(11) (12)
環境	(2)(6)(7)	(2)(7)	(2)(4)(6)(7) (8)
言葉	(1)(2)(5) (7)(8)(10)	(1)(2)(8)	(1)(2)(3)(4) (5)(8)
表現	(1)(2)(3) (5)(7)	(1)(2)(3) (4)(5)	(1)(2)(3)(5) (7)

2-3-4 事例4について

事例4「郵便屋さんごっこ」

子ども達の中で、家庭で書いてきた手紙を翌朝友達に渡すという手紙交換が流行り始めると、幼稚園でもたくさん手紙を書いて友達に手渡しするようになります。文字を書ける子はほとんどいないので、保育者に「〇〇ちゃんって書いて!」とか「『あ』はどう書く?」など尋ねたりして一生懸命に手紙を書いています。また、家族ごっこの中でも郵便屋さん役が登場し、「ゆうびんやさんで〜す」と手紙を届けることを楽しんでいる姿が見られます。子ども達の様子を見て、画用紙ではがきを作ったり、切手を作ったりして準備をしておくと、子ども達は夢中になって何枚も何枚も手紙を書きます。誰かが空き箱をポストに見立てて手紙を入れ始め、それを見た子が自分もポストを作りたいとポスト作りに取りかかります。子ども達なりに使う廃材を選び、組み合わせを考えて、難しいところは保育者に手伝ってもらいながらポストを作っていきます。そうして色々なポストができあがり、保育者が最後に郵便マークを書くと、とて

も大喜びです。できあがったポストに手紙を入れると郵便屋さん役の子どもが回収に来て配達してくれます。手紙を書くことやもらうことの楽しさや喜びを感じているようです。(香田)

表8 事例4「郵便屋さんごっこ」の分析

	Gさんの分析	Hさんの分析	『遊び集』の分析
健康	(1)(4)	(1)(4)	(1)(4)
人間関係	(2)(5)	(1)(3)(4)(8)	(1)(2)(3)(4) (5)(6)(7)(8) (12)
環境	(2)(6)(9)	(2)(6)(8)(9)	(6)(7)(8)(9) (10)
言葉	(2)(3)	(1)(3)(8)(10)	(1)(2)(3)(5) (8)(10)
表現	(1)(4)(5) (8)	(4)(5)(7)(8)	(1)(3)(4)(5) (7)(8)

2-3-5 事例5について

事例5「一輪車」

園庭の東南隅に一輪車置き場があります。6台の一輪車を交替で使っていたのですが、平成24年度から14台に増え、たくさん子ども達が、一輪車を楽しめるようになりました。最初は、大人が1対1で両手を持って支えたり、両側に補助棒がついている一輪車練習用の場所で練習しています。そのうち体幹がしっかりしてきて、片手を鉄棒や練習用の棒に添えていれば乗れるようになってきます。こうやって鉄棒やフェンスをつたって何日か練習した後、保護者に片手で支えてもらってバランスをとりながら園庭の真ん中に向かってフラフラと乗り始めます。子ども達同士で支え合ったり、目標を決めて「あの木の所まで行きたい」と挑戦したりしています。

毎年、運動会で年長児の種目である「ほら、見て♪」(跳び箱や縄跳びなどができるようになったことを披露する)の1つのコーナーで一輪車を披露しているので、IV期くらいから年長児への憧れの気持ちをもって取り組み始める子どもも多いようです。(深川)

表9 事例5「一輪車」の分析

	Iさんの分析	Jさんの分析	『遊び集』の分析
健康	(1)(2) (3)(4)	(1)(2)(3) (4)(10)	(1)(2)(3)(4) (10)
人間関係	(1)(2) (3)(5) (6)(7) (8)(10) (12)	(1)(2)(4) (5)(7) (11)(12)	(1)(2)(3)(4) (5)(6)(7)(8) (10)(11) (12)
環境	(7)	(7)	(2)(6)(7)
言葉	(1)(2)	(1)	(2)(3)(5)
表現	(1)(3)	(8)	(3)

3 総合考察

本稿において、特例講習の科目である「保育内容総論」を振り返ることにより、授業改善を行うことが目的であった。第2回目の「遊びの中の保育内容5領域」の検討では、アクティブ・ラーニング型授業として Think-Pair-Share の技法を取り入れた。

授業では佐賀大学文化教育学部附属幼稚園の『遊び集』より5つの事例を用いて分析を行った。ペア学習の中で、2人が全く同じ分析結果になった事例は1つもなかった。また、『遊び集』で分析されている結果とも、違いがあることから、子どもの遊びに対して様々な見方があるということがいえるだろう。まずは、保育内容5領域についてそれぞれ考察を行う。

「健康」の(1)から(10)までの「内容」が、子どもの活動や基本的生活習慣の確立など行動面についての事項が多いため、可視化しやすく、分析に迷いが生じることが少ないと考えられる。また、心情面の事項があまり含まれていない。そのため、保育内容健康の領域は、他の領域よりも、保育者が比較的共通性を見出しやすい。各事例の3者(2名の受講者と『遊び集』の分析者)の分析結果が似通っている。

「人間関係」では「(1)…喜びを味わう。」「(4)…気持ちを持つ。」「(5)…共感し合う。」「(6)…気付く。」「(10)…思いやりをもつ。」など心情面の内容項目が多く含まれている。遊びのエピソード記述されたものだけでは、これらの内容に入るのかどうかの判断が難しく、分析者により異なる結果になりやすい。

「環境」においても、「内容」の中に「(1)(3)…気付く。」「(4)(8)(9)…関心を持つ。」「(2)(10)…興味や

関心を持つ。」という記述が多く、やはり心情面での事項が多い。心情面の「内容」の事項が多ければ、行動面のように可視化しにくいいため、エピソード記述のような事例では分析が困難になることが考えられる。

「言葉」においては、各事例の中にすべての子どもものつぶやきが記述されているわけではない。そのため、事例の記述だけでは「内容」の分析は困難であったと考えられる。分析者の文面の捉え方により、変化する可能性もある。

「表現」においては、造形的な内容が含まれるもの、音楽的な内容が含まれるもの、演劇的な内容が含まれるもの、複合的なものなど、表現領域の内容項目に含まれている中身は幅が広い。「並べる」や「マーブリング」の事例のように造形表現の領域が考えられるものは3者が、ほぼ同じような分析をしている。しかし、演劇的な要素が入ってくる「郵便屋さんごっこ」や、感性の表現遊びである「変な顔遊び」は、捉え方が分析者により差異が生じやすいと考えられる。

受講者同士で事例を検討することにより、子どもの遊びの中には、保育内容5領域が含まれていることが、理解できたという意見があった。また、自分以外の考えを聞くことにより、違う視点で子どもの遊びを見ることができたという感想があった。また、自分の園が力を入れている領域は、内容の抽出数が多いとの意見も挙がった。

Think-Pair-Share の技法を取り入れた授業により、遊びの中の保育内容5領域が含まれていることについて一定の理解が得られたものと考えられる。

今回は、5つの事例を用いた。今後の課題としては、分析結果の考察の時間を多めに取っていきたい。共通性や差異を検討する時間が短かったため、時間をかけて考察することで遊びの中の5領域の理解がさらに深まると考えられる。

Think-Pair-Share による分析結果から、どのような根拠により、2名の分析結果が異なったのか要因を検討することも必要である。

引用文献

- 1 文部科学省(2008)『幼稚園教育要領』第2章ねらい及び内容
- 2 文部科学省(2008)『幼稚園教育要領』
- 厚生労働省(2008)『保育所保育指針』
- 内閣府(2014)『認定こども園教育・保育要領』

³安永悟(2011)「効果的なグループ討議法」(10月4日講演資料より) 久留米大学

Think Pair Share の技法とは、以下の手順である。

- ① クラス全体に質問を与える。
- ② 一人で考える。
- ③ ペアで順番に考えを述べる。(ほぼ同じ時間を使って：平等性)
- ④ クラス全体で話し合う。

⁴文部科学省、前掲『幼稚園教育要領』第2章ねらい及び内容

⁵兵庫県教育委員会(2014)『幼児期と児童期の「学び」の接続の推進にあたって』

⁶①『幼稚園教育要領』では保育者のことを「先生」、『保育所保育指針』では保育者のことを「保育士」、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』では保育者のことを「保育教諭」と記載されている。

②5領域の人間関係において、『保育所保育指針』では、「④外国人など、自分とは異なる文化を持った人に親しみを持つ。」という文言があるが、『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』には記載されていない。

③5領域の環境において、『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』には記載されている「国旗に親しむ。」という文言は、『保育所保育指針』では、記載されていない。

④5領域の言葉において、『保育所保育指針』では、「保育士等とごっこ遊びなどをする中で、言葉のやり取りを楽しむ。」という文言はあるが、『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』には記載されていない。

⑤5領域の表現において、『保育所保育指針』では、「水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ。」及び「保育士等と一緒に歌ったり、手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ。」という文言は記載されているが、『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』には記載されていない。

⁷大豆生田 啓友・渡辺 英則・柴崎 正行・増田 まゆみ【編】(2011)『最新保育講座保育内容総論』ミネルヴァ書房 p10 エピソード「泥だんごにひびがはいっちゃった」

⁸佐賀大学文化教育学部附属幼稚園(2012)『遊び集』

⁹同上

事例1「変な顔遊び」 p24

事例2「並べる」 p18

事例3「マーブリング遊び」 p146

事例4「郵便屋さんごっこ」 p56

事例5「一輪車」 p102

ピアスーパーバイザーからのコメント

保育内容5領域を理解する言葉として「5領域は子どもを覗く5つの窓である。」などと表現することがある。子どもの遊びや生活の中には様々な要素が含まれているが、それらを5つの領域に整理してそれぞれの領域から子どもを理解し偏りのない適切な指導を実践できるようにと考えられたものが保育内容5領域である。

本報告は、3年以上の実務経験を持つ保育士がアクティブ・ラーニングの手法を用いて子どもの遊びや生活を分析し、その中に現れる子どもの言動を5領域から眺めた場合どのような要素が含まれるのかを検討したものである。保育経験者が子どもを見る眼差しがよくわかり、また保育者による見方・考え方の違いと共通するものなど様々な読み取り方ができて興味深い。

本学の学生をはじめ保育経験の浅い人が陥りやすい過ちとして、保育内容5領域を小学校の教科のように捉えてしまうということがあげられるが、そうではないことを示す好事例である。

(担当：小林 伸雄)